

はじめに

わが国は、平成18年をピークとして人口が減少に転じ、このまま少子化が進行すると、今世紀末には人口が約6千4百万人に半減すると予測されております。

急速な少子化の進行により、労働力人口の減少による経済成長の鈍化、社会保障分野における現役世代の負担増加などの経済面での影響だけでなく、地域社会の活力が低下するなど、さまざまな影響が懸念されます。

人口の増加が続いている練馬区でも、今後は子どもの数が減っていき、中長期的には人口が減少していくものと思われまます。

このようなわが国と練馬区の状況を踏まえると、私は、子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる社会、子どもを生み育てることに喜びを感じられる社会を築いていくことが、緊急かつ重要な課題であると考えております。

そして、この課題の解決に取り組んでいくためには、区のあらゆる施策に子どもと家庭の視点から光をあてるとともに、区民の皆さまとの協働を基本とすることが必要であります。

このため、「練馬区次世代育成支援行動計画」の策定にあたりましては、子育て中の家庭や、中学生、高校生に加えて、子育てを終えた家庭や独身の方などへのアンケート調査を実施し、子どもと家庭をめぐる状況と、区民の皆さまの意識や意向を把握することに努めました。

また、区議会からいただいたご意見や、学識経験者、福祉・教育関係者、公募による委員などで構成する「練馬区次世代育成支援対策協議会」からいただいたご提言、区民意見反映制度により区民の皆さまからいただいたご意見を、可能な限り計画に反映するように努めました。

この計画のめざすものは、行政だけではなく、区民の皆さまの力を結集して、次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる練馬区を築いていくこととあります。

区といたしましては、全力をあげてこの計画の推進に努めてまいりますので、区民の皆さまにおかれましては、計画目標である「子育て、子育てをみんなが応援するまちなりま」の実現に向けて、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成17年3月

練馬区長 志村 豊志郎